

LjStudio：旧 LJ Manager のタッチパネルを見た目どおりに再現・起動時に副画面へ

2026-10-07 / LjStudio 版 2026-10-07_0821 / 社内スタッフ向け

現場で使われていた旧 LJ Manager のタッチパネル（6 面）を、純正の画面と並べて比べ、LjStudio の見た目とボタンの動きをそろえた。あわせて、PC を起動すると**タッチパネルが副画面いっぱい**に**自動で出る**状態を、開発機で再起動して確認した。

1. 何をしたか

- 純正 LJ 2.7 + LJ Manager 1.5.2 で現場のデータを開き、6 面を撮影して LjStudio と並べた。
- 純正の LJ Manager は、起動すると**最後に使ったタッチパネル（1 面目）を自動で開く**設定になっていた。LjStudio でも同じ起動の姿を作った。

2. LjStudio で直したこと

項目	直す前	直した後
ボタンの色	約 3 分の 2 のボタンは純正ではグラデーションなのに、単色で描いていた	純正と同じ向きのグラデーション（縦は上から、横は左から）
何も無い枠	白いボタンに見えていた	純正と同じく、面の地に溶けて見えない
停止のボタン	「停止」が効かず、「停止して消す」は止めるだけだった	「停止」と「停止して光も消す」を区別して実行
まとめて実行するボタン	効かなかった	LJ Manager の「Action」（操作の並び）を読み、順に実行
途中で切れた文字	□ に × の印で表示	純正と同じ「・」で表示
副画面で最大化した窓	次に起動すると主画面いっぱいに出ていた	覚えた画面で最大化する

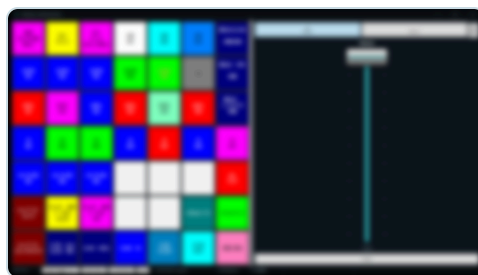
面の切り替えボタン（別のページへ移るボタン）は、もともと LjStudio で動いていた。

3. 見比べ

写真はボタンの文字を読めないようにぼかしてある（現場の運用の文言のため）。色の並びだけを比べてほしい。



純正 LJ Manager



LjStudio 直す前（単色）



LjStudio 直した後

純正の写真は窓を広げて撮ったため、右と下が崩れている（純正は広げた窓を描き直さない）。

4. 起動するとタッチパネルが副画面に出る



PC の再起動後、自動ログオン → LjStudio が自動で起動 → タッチパネルが副画面いっぱいに出たところ

設定のしかた（LjStudio 版 2026-10-07_0821 以降）：

1. メニュー **System** で「Windows 起動時に自動で起動（LjStudio）」にチェックを入れる。
2. 使うライブラリを開き、タッチパネルを開く。
3. タッチパネルの窓を副画面へ動かして最大化する。メイン画面など他の窓は主画面に置く。

4. LjStudio を**普通に閉じる**。窓の並びはライブラリごとに覚えるので、次の起動から同じ姿で開く。

窓がそろうまで起動から十数秒かかる。タッチパネルを閉じたまま LjStudio を終えると、次の起動ではタッチパネルは出ない（覚えた並びどおり）。

5. 注意

- 副画面に触れて主画面が反応するときは、Windows の「タブレット PC 設定 → セットアップ」で、タッチがどの画面に効くかを合わせる。
- 押された状態で保存されたボタンの一部は、純正と見た目が少し違うことがある（純正の規則を調べている途中）。